

商学部における特色ある学部教育の補助「国内実態調査」 報告書

テーマ	演習テーマである社会的企業についての実態調査						
科目名	演習Ⅰ、演習Ⅲ						
担当教員	井上 義朗						
調査先	特定非営利活動法人ころん						
調査期間	2025年9月11日(木)		～	2025年9月13日(土)			
参加学生数	1年生	名	2年生	名	3年生	10名	4年生 13名

調査の趣旨（目的）

演習のテーマである社会的企業について、NPO法人「ころん」に現地訪問し実態調査を行う。「ころん」は諸問題を抱える児童の教育支援をはじめ、様々な地域課題に取り組んでいるNPO法人であり、その事業内容について実地に見分できることは、今後のゼミ活動にとって大変有益なものであると考える。

今回の調査では、和歌山県田辺市にある、NPO法人「ころん」を訪問しました。現地では理事長の小川氏をはじめとして職員の方々から施設の案内をしていただき、また実際に利用者の方々働いている姿を見せていただくことが出来ました。そして施設案内をしてもらった後には小川氏から「ころん」を設立するに至った経緯やその当時の心境、現在取り組んでいる事業について詳細な説明をしていただきました。また事前研究に基づく個別質問では1問ずつ丁寧に返答していただき、疑問点の解消だけでなく一層の理解に繋げることが出来ました。

話を聞く中で取り組み範囲の広さと決断から実行に至るまでのスピードが著しいことが印象に残っています。組織が大きすぎないことも実行スピードが早い理由の1つにはなりますが、それ以上に小川氏の試行回数の重ね方が巧みだと思いました。小さく始めてダメだったらすぐ撤退というPDCAサイクルを繰り返すことが今の「ころん」を作っているのだと思いました。

今回の訪問を通じて話を聞く中で行政のサービスは決して十分とはいえないが、「ころん」が第3セクターとして行政のサービスの補完的な役割を担うことでサービスの充足を図っていることを強く実感しました。行政や民間企業などよりも制約がある中で適切にリソースを分配して組織を持続させ目的を遂行することの困難さを知ることが出来ました。社会に貢献することには様々な形があり、その1つの例として「ころん」を知ることが出来たので、この経験を今後のゼミ活動の糧にしていきたいと思います。

